

(資料 3 9) 所内公募型研究制度の実施状況

1. 平成15年度奨励研究実施状況

平成15年度においては、基盤的研究28課題、長期モニタリング4課題の計31課題を実施した。

種類	氏名	課題名	研究期間	(千円)	内部評価結果					評価人数
					Aの数	Bの数	Cの数	Dの数	Eの数	
基盤的研究 (28課題)										
(平成15年度継続 評価対象7件、採択5件)										
	遠嶋 康德	重量充填法による大気中のO2/N2比測定用標準ガスの調製方法の開発	14~15	4,000	10	8	1	0	0	19
	中嶋 信美	ビスフェノールAを無毒化する植物のグルコース転移酵素のcDNAクローニング	14~15	3,000	8	7	2	0	0	17
	奥田 敏統	レーザープロファイラを用いた熱帯陸域生態系の長期観測	14~16	5,000	3	12	3	0	0	18
	谷本 浩志	PAN測定器の高精度化と同族化合物への拡張(沖縄・波照間ステーションにおけるPANの季節変化観測)	14~15	2,000	5	9	3	2	0	19
	永田 尚志 矢部 徹	ヨシ原管理が野生生物および生態系機能に与える影響に関する研究	14~16	3,500	1	8	6	0	0	15
(平成15年度新規 提案課題45件、採択23件)										
	高村 典子	最近の釧路湿原3湖沼の環境劣化の現状とその原因究明のための基礎調査(課題名変更:釧路湿原達古武沼の自然再生に向けての調査研究)	15~16	3,000	10	10	1	0	0	21
	宮下 衛	希少トンボ種の保全遺伝学的研究	15~16	3,000	9	7	3	0	0	19
	中宮 邦近	環境汚染物質の微生物分解に関する研究	15	2,000	6	11	4	0	0	21
	中山 忠暢	釧路湿原流入河川の再蛇行化による湿地生態系の回復可能性評価	15~16	4,000	7	8	4	2	0	21
	崔 宰源	主要臭素化難燃剤のTBBPA, DeBDEの生物試料中の分析法開発と生物濃縮性に関する研究	15	3,000	5	9	6	0	0	20
	丸山 若重	数理モデルと生物試験を併用したダイオキシンのヒト健康リスク評価	15	2,900	4	7	6	0	0	18
	天沼 喜美子	変異原性検出用遺伝子導入魚の胚を用いた研究 - 化学物質に特徴的な突然変異の検出 -	15	2,000	4	6	6	0	0	17
	石村 隆太	胎盤血管収縮に着目したTCDD感受性の系統差を生み出す新規生体因子の解析	15	3,000	3	11	6	0	0	20
	猪俣 敏	H02-水錯体生成反応に関する研究	15	3,000	5	8	6	1	0	20
	長浜 智生	FTIRを用いた赤外放射スペクトル観測による、CO2・水蒸気等の計測手法の研究	15	3,000	4	9	7	0	0	20
	桜井 健郎	底質のある水環境での有害化学物質の生態毒性研究系の確立のための基礎的研究(課題名変更:底質のある水環境での有害化学物質の生物移行および生態毒性研究系の確立のための基礎的研究)	15~16	2,000	4	9	7	0	0	20
	川嶋 貴治	希少鳥類種の個体増殖に関する新手法	15	2,000	4	5	7	0	0	17
	荒巻 能史	海洋における溶存有機炭素中の放射性炭素測定に関する研究	15	2,000	5	8	7	1	0	21
	西川 智浩	コアクチベーターを用いたin vitro ホルモン様作用検出系の構築	15	2,000	4	10	6	1	0	21
	玉置 雅紀	環境ホルモンのマメ科植物の共生窒素固定に及ぼす影響	15	2,000	4	9	8	0	0	21
	吉田 勝彦	ジェネラリストは変動環境下で絶滅しにくいのか?	15	750	4	7	8	0	0	19
	李 美善	陸域生物圏における酸素と二酸化炭素の交換比率に関する研究	15	2,000	5	6	7	1	0	19
	田辺 雄彦	有毒アオコの遺伝的多様性と集団構造の解析に関する研究	15	2,000	2	9	6	0	0	17
	橋詰 和慶	ハマグリ種の保全生態学的研究	15	2,000	4	8	7	1	0	20
	西村 典子	妊娠期の低用量ダイオキシンの暴露による仔ラットにおける水腎症発症メカニズムの検討	15	2,000	5	6	6	2	0	19
	高橋 善幸	北東ユーラシアの森林を代表するカラマツ林生態系の大気二酸化炭素安定同位対比分別効果の時間的変動とその環境応答に関する研究	15~17	2,000	3	9	8	1	0	21
	陳 晋	Hyperspectral identification of biological crust in desert areas	15	2,000	4	7	7	2	0	20
	高村 健二	外来補食魚ブラックバスの全国系統マップづくりと由来推定	15	2,000	2	9	7	1	0	19
				小計	71,150					
長期モニタリング (3課題)										
(平成15年度評価課題2件、新規課題1件)										
	横内 陽子	南半球におけるVOC(揮発性有機化合物)のベースラインモニタリング	13~17	5,600	11	5	1	0	0	17
	中村 泰男	有明海等における高レベル栄養塩濃度維持機構に関する研究:適正な浅海域管理をめざして	14~18	6,000	10	8	0	0	0	18
	富岡 典子	霞ヶ浦エコトーンにおける生物群集と物質循環に関する長期モニタリング	15~19	6,000	6	5	7	2	1	21
				小計	17,600					
				合計	88,750					

2.平成15年度後期奨励研究実施状況

研究を進めていく途上で生じた研究課題に対応するため、15年度後期に実施する所内奨励研究として
 基盤的研究11課題を実施した。

種類	氏名	課題名	研究期間	(千円)	内部評価結果					評価人数	
					Aの数	Bの数	Cの数	Dの数	Eの数		
基盤的研究 (11課題)	(平成15年度新規 提案課題22件、採択11件)										
	渡邊 英宏	1H磁気共鳴スペクトロスコピーを用いた神経伝達物質の in vivo計測法の研究	15後期～16前期	1,500	8	5	1	0	0	14	
	早崎 将光	東アジア地域における寒気流出活動度の年々変動の調査	15後期	1,000	7	6	2	0	0	15	
	梁 乃申	森林炭素循環モデルの高精度パラメタライズとそれによるモデルの検証	15後期	2,000	9	4	0	2	0	15	
	浦川 秀敏	東京湾での窒素循環に関わる微生物群集に関する研究	15後期～16前期	500	8	2	4	0	0	14	
	柏田 祥策	透明メダカ授精胚の生態毒性研究への適用と生態リスク評価への応用	15後期～16前期	1,600	6	4	3	1	0	14	
	山元 恵	サルE S細胞を用いた環境有害因子の毒性評価法の開発	15後期～16前期	1,000	4	7	4	0	0	15	
	小倉 和夫	気候モデルにおける雲水の気中CO2増加に対する応答機構の解析	15後期	500	4	5	5	0	0	14	
	沼田 真也	一斉開花の地理的分布評価のための技術開発	15後期	1,500	4	3	8	0	0	15	
	松永 恒雄	高頻度衛星観測によるヒートアイランド対策の広域直接評価に関する先駆的研究	15後期～16前期	1,150	3	5	4	2	0	14	
	立田 晴記	染色体構造変化が生じたサッポロフキバツタ集団の歴史性・遺伝的固有性の探索	15後期～16前期	1,200	1	7	6	0	0	14	
齋藤 尚子	衛星データと数値モデルを用いた成層圏エアロゾルの消長に関する研究	15後期	2,000	2	5	6	1	0	14		
		合計		13,950							

[評価] ()内は得点
 A 大変優れている
 B 優れている
 C 普通(研究の実施は可とする)
 D やや改善が必要
 E 大幅な改善が必要

3. 平成15年度特別研究実施状況

平成15年度においては、新規3課題を含む7課題を実施した。

(新規採択分)

氏名	課題名	研究期間	(千円)	内部評価結果						外部評価結果					
				A の数	B の数	C の数	D の数	E の数	評 価 人 数	A の数	B の数	C の数	D の数	E の数	評 価 人 数
柴田 康行	有機フッ素化合物等POPs様汚染物質の発生源評価・対策並びに汚染実体解明のための基盤技術開発に関する研究	15～17	20,000	10	4	0	0	0	14	4	12	1	0	0	17
野原 精一	湿地生態系の自然再生技術評価に関する研究	15～17	20,000	2	6	4	1	0	13	4	8	4	0	0	16
藤巻 秀和	有機化学物質情報の生体内高次メモリー機能の解明とそれに基づくリスク評価手法の開発に関する研究	15～17	20,000	7	5	2	0	0	14	4	8	4	1	0	17
合計			60,000												

(継続分)

氏名	課題名	研究期間	(千円)
田村 憲治	中国における都市大気汚染による健康影響と予防対策に関する国際共同研究	12～16	13,600
今井 章雄	湖沼における有機炭素の物質収支および機能・影響の評価に関する研究	13～15	17,700
畠山 史郎	大規模広域大気汚染に関する国際共同研究	13～17	13,100
高野 裕久	アレルギー反応を指標とした化学物質のリスク評価と毒性メカニズムの解明に関する研究 - 化学物質のヒトへの新たなリスクの提言と激増するアトピー疾患の抑圧に向けて -	14～16	20,000
合計			64,400

【評価】()内は得点

- A 大変優れている
- B 優れている
- C 普通(研究の実施は可とする)
- D やや改善が必要
- E 大幅な改善が必要